

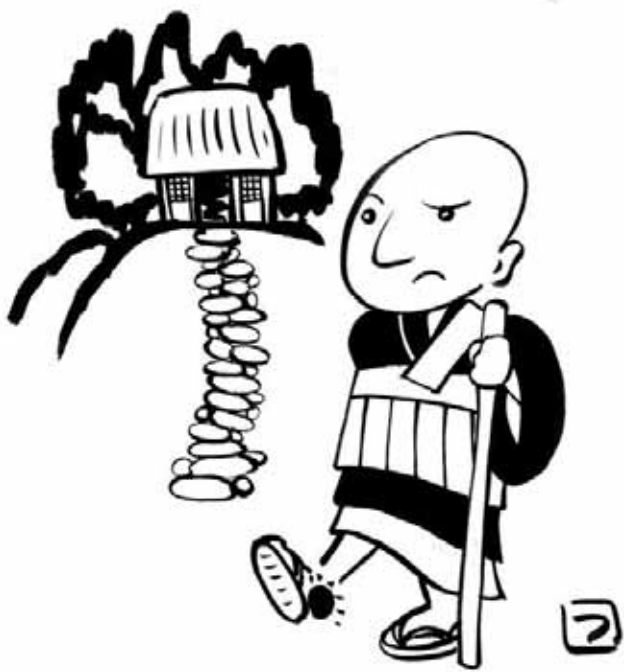
鳥井畑の成長石

豊前市の鳥井畑という村にな、ふしぎな石が今もあるそうじゃよ。今からその話をしてみようかの。鳥井畑に放光山宝寿寺というお寺があるんじゃが、昔はな、宝寿庵と言っていたそうな。話はな、宝寿庵のじゅうしよくさんが持ち帰ったという石の話なんじゃ。

それはよく晴れた日のことじゃ。じゅうしよくさんが山里のお寺から、椎田の海へにある『浜宮の綱敷天満宮』におまいりに行かれた。遠くはなれた天満宮はな、多くの人たちから天神様としたわれて、毎日のようにいろいろな所からおまいりする人がいたそうな。

この日もゆっくりとおまいりをしていたじゅうしよくさんじゃが、ふと気づくとお昼もずいぶん過ぎておった。このままでは自分のお寺まで帰り着くころは日もくれそうだと、急いで帰ることにした。

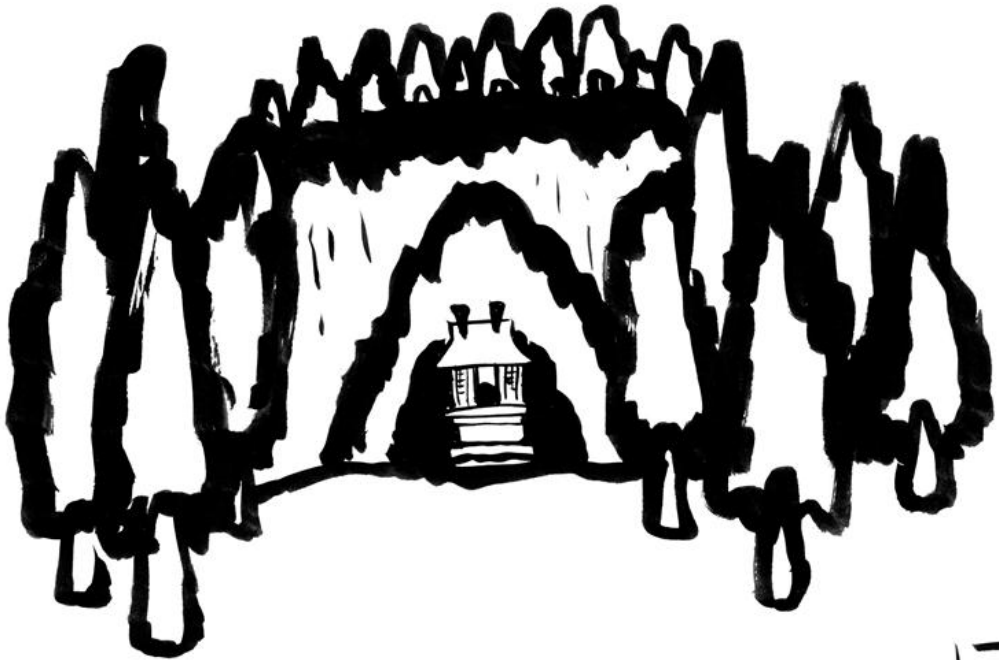
松江の浜、山田の田畑を通りすぎ、八屋の町から求菩提道に入り宝寿庵に向かって急いでいた。ところが、如法寺の山道にさしかかり、あと三分の二ぐらいの所で、急にわらじのかかとふきんが気持ち悪くなってな、どう



もへんだと思おもいながら一休ひとやすみすることにしたんじゃ。ふんわりとした草くさむらにすわりこみ、わらじのひもといて、かかとのふきんを見みたと。するとどつじやるつ。うめの実みぐらいの小石こいしがはさまっていての、じゅうしょくさんはふしぎに思いながら、小石こいしを取とりわらじのひもをかたくむすんで、帰かえりを急あいで歩あき出だしたと。

じゃが、そう何歩なんほも歩あかないうちに、また同おなじところが気持ち悪わるくなったそうな。そこで、またわらじのひもをときかかとふきんを見ると、同じ場ばしよ所に同おなじような石いしがはさまっていたんじゃ。そこでじゅうしょくさんは、今度はこの小石こいしを自分のたもとに入れて持ち帰かえることにした。するとそれから、一度も足あしが気持ち悪わるくなることはなかったそうじゃ。帰り着きいたじゅうしょくさんは、何気なにげなく、この小石こいしをお寺おてらの庭先にわさきのとうろつのもとにおいたそうな。

ところが、数ヶ月すつかげつがたったかな、小石こいしのことをすっかりわすれていたころのことじゃ。じゅうしょくさんが庭にわのそうじをしながらふと、とうろつの方ほうを見るとな、あ



の時のうめの実ぐらいの小石がだいぶ大きくなっていたと。おどろいたじゅうしょくさんは『この小石はきつと天神様、菅原道真の化身である』と考えたそう。そして、うら山にあるいわあなにほこらを作り、この小石をまつったそう。

さいきんまで、七月二十五日に天神様の命日にはな、村人が集まっておこわをたき食べ物をそなえ、くようをしていたそう。

菅原道真・・・綱敷天満宮に祀られている学問の神様
化身・・・生まれ変わり

(米村祥子)



鳥井畑の成長石